



このページは読者の皆さんからの声にふれあう場です。いろいろな声をお寄せください。

散歩をしてみませんか

●紅玉りんごさん

夜明けが早くなったので、時々朝散歩をしています。黄色や紫の花が咲き、水鏡となった水田に緑の山々が映り、ドラマの中のような風景が楽しめます。歩いた日は、一日体の調子が良いような気がします。でも、最近ゴミが気になるようになりました。空き缶、吸い殻、食品トレイ；お墓の近くには花を包んであったビニールも捨ててありました。どんなに小さなアメの包装やたばこのフィルタも、紙と違って雨で溶けたりはしません。長い間残っているのです。なぜ、持ち帰って収集日に出す、という簡単な

ことができないのでしょうか。「捨てればゴミ、分ければ資源」と学校で習っても、通学路がこんな有様では子どもたちはどう考えるでしょう。たとえ進学や就職で、いったんこの地を離れても、帰ってきたい、と思える魅力ある故郷を作るにはここに住む人がこの地を愛し、大切にすることが第一歩だと思います。地域の人が大事にしない場所に、観光客だって呼ばれません。車に乗っているとなかなか道路脇まで目が届かないので皆さんぜひ一度近所を歩いてみませんか。

グなどにはピッタリの時期なのではないでしょうか。道端の花や木々を眺めながらゆっくりとした時間を過ごせそうです。でもその風景にゴミが落ちていたら、せつかくの楽しい気分が台無しですね。紅玉りんごさんのおっしゃるとおり、子どもたちは大人がすることをしています。串間に観光に来てもらいたい、子どもたちに串間に残ってほしい。その想いを実現するにはどうすれば良いのでしょうか。たまにはゆっくり歩いてみて、たまに立ち止まり、自分の周囲を見渡してみ、自分が住みたい地域なのか、見つめ直す時間が、わたしたちには必要なかもしれません。

夫婦の道のり

●百野達夫さん

夫婦の定義についてはよく知らないが、今日まで歩いてきた道のりから考えてみることにした。まったく知らない者同志が出会いや人の紹介などで意を決する夫婦。未来が分からないだ

けに賭け事に似た面もある。その賭け事に縁あって今町駅前の人と連れ添うことになった。大なり小なりの問題を秘めながら勢よく駆け出したが、想像しえなかった大波小波で舟は難航。日がたち月が巡り年が明ければ、次々に一男二女ができた。子どもの誕生は働きずくめの環境に笑いと和やかな雰囲気をつくり、生活に張りりとフアイトが増した。戦場みたいな子育てに続き、適齢期になったら子どもを嫁取り嫁出し。人に遅れまいとなりふり構わず走り続けた足跡。月日は流れて、孫もひ孫もできた。ダイヤモンド婚は昨年クリアしたが二人の平均年齢は80歳を越した。その分しわも増えた。いつ倒れてもおかしくない年代に突入している。体力の維持にと運動もしてみるが、病めば病んだで気を揉み「ガンでは」と二人して顔を見合す。60余年の喜怒哀楽、過ぎし月日の流れは早いもの。願わくば共に健康で。夫婦の

絆をベースに思いやりという潤滑油を差し合って、残された道のりを送りたい。独身のわたしには、とてもうらやましい内容のお便りですね。楽しいこと、辛いこと、色々なことがあった結婚生活が想像されます。お二人の築きあげてきた絆によって、お子さんやお孫さん、ひ孫さんの今があるのではないのでしょうか。その絆は消えることなく、お子さんたちをとおして、周囲の皆さんにもつながっていくことでしょうか。これから夫婦の道のりを、お二人で元気に歩んでいかれることを願っています。

くしまのアップルを

●タンポポさん

宮崎県立美術館で花旅みやぎが開幕され、壁面の投射スペースは巨大で国内で最大級とされる。又総合文化公園では花ピラで七千本のバラの花ピラを敷き詰めたインフィオラータがこの日ポランティアで制作された。県内の魅力をアップルするイベ

ントだった。

そこでわたしは思うのですが、市内のアチコチ、特にニシムタ前などで見られる選挙立候補者の立札が立っていて、もうすぐ一年になると思うのですが、よその方には、「あら申間はまた何の選挙があるんだらうか」と思われるんじゃないだろうか。

早く撤去して、観光案内板などで申間をアップルしたらいかがなものでしょうか。

「花旅みやぎ」は宮崎県内各地の花の名所を紹介する企画ですね。都井岬もアジサイやヒオウギの名所として紹介されています。花ピラを敷き詰めた「インフィオラータ」を製作したことは新聞などで大きな話題になり、宮崎県の大きなアップルになったことでしょうか。

さて、串間市内でも観光案内板などでアップルを、とのご意見。確かに市内に点在する看板などは、選挙の情報ははじめ市民の皆さんに向けたものが多いような気がしますね。観光客や帰省された方に

とつてのものが、もつと多くなっても良いのかもかもしれませんね。

ふるさとへの思いを大切に

●竹下圭之さん

先般、朝日新聞の全国版「男のひといき」欄に「津代さん75歳の挑戦」が掲載された。岐阜県大垣市在住で80歳代の大東出身の長岡力ズさんから電話をもらった。「投稿を見て申間を懐かしく思い出したが、その後は振込用紙だけが届きます」と話された。広報担当に、「広報くしま」を12月分まで送ってもらおうに切手を届けた。先日「とてもうれしかったです。今度ふるさと納税を3万円します」と電話があった。申間を離れている人にとって「広報くしま」は大きな故郷との絆になるのだと思った。

「ふるさと納税」にはこのころのこもった対応をお願いします。

まずは、広報くしまへのお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございます。「広報くしまは故郷との絆になる」これ以上ないお言葉でした。遠く離れた地からも故郷を感じられる。そんな誌面づくりを心がけなければならぬと改めて感じました。今後、市内のいろいろな人の絆をご紹介します。と思っています。

竹下さんからの便りに総合政策課企画統計係から回答いたします。

これまで寄附をいただいた方々へは、毎年寄附の内容を掲載した広報くしまと、応援寄附金のパンフレットと寄附のご案内を送付しております。現在、寄附者への1年間分の広報送付は行っておりませんが、遠く離れた地からふるさとへ寄附をされる方々の気持ちも大切にしたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

メッセージ・写真投稿コーナー

お誕生のお祝いや、感謝の気持ちをメッセージにして贈りませんか。また、あなたが撮影した写真（人・風景・ペットなんでも可）もぜひ、お送りください。6月17日は父の日です。お父さんへの日ごろの感謝の気持ちを伝えてみませんか。父の日のプレゼントに広報誌、いかがですか。



【オキナグサ】
Pulsatilla cernua
キンポウゲ目
キンポウゲ科

日当たりの良い草地でしか育たないオキナグサ。全国的に減少している。希少な植物であるが、都井岬では、御崎馬との良好な関係により育成環境が維持され、春になると美しい花を咲かせた本種に出会うことができる。

●投稿者：フォトグラファー 山下啓さん

お便り・投稿募集しています。

下記QRコードをご利用ください（紙面に限りがあるので、すべての投稿を掲載することができないことがあります。あらかじめご了承ください）。

- ①名前（ペンネーム可）②連絡先
- ③コメントを必ず添えてください。
- ◎Eメールアドレス
info@city.kushima.lg.jp



お便りお待ちしています。

◎伝言メッセージ例

じいじ・ばあばへ

じいじ、ばあば、いつもありがとう。たくさんたくさん長生きして、一緒に遊んでね。

アビちゃん